

表 8 初動期の支援ツール

記入者： 作成： 年 月 日

初動期		
相手に合わせた支援方法を提示し、会話できるような信頼関係の構築を目標とする時期		
本人への支援	☐	1. 定期的に訪問して顔を覚えてもらい、信頼関係を築く
	☐	2. 関わりを求めない場合には、継続訪問により見守りを行い本人の状況の変化を確認する
	☐	3. 外見や清潔保持の状況等から、ADL やセルフケアの状況を確認する
	☐	4. 堆積物に対する本人なりの考えを確認する
	☐	5. 片付けなどで困り事がないか、本人の訴えを聞き出し支援の糸口を探る
	☐	6. 人間関係や失業等、きっかけとなる過去のライフイベントの有無を確認する
	☐	7. サービス導入後の生活が具体的にイメージできるように話をする
	☐	8. 在宅時間を見計らって訪問し、関わりが途切れないようにする
	☐	9. 近隣とのトラブルがある場合は、本人が理解しやすいように具体的に説明し認識してもらう
	☐	10. 家屋の片付けについて、業者の利用を提案する
	☐	11. 他者とのトラブルに対する訴えを聞き、改善策を提案する
家族・親族への支援	☐	12. 家族・親族より、本人の成育歴等の情報を得る
	☐	13. 家族・親族に、本人に対する支援への協力を依頼する
	☐	14. 本人および家族との接触が図れない場合は、別居親族へ連絡をとる
	☐	15. 他職種との同行訪問によりサービス導入の具体的な手続きを行う
	☐	16. 家族・親族と業者の作業への立ち会い予定を調整する
	☐	17. 家族・親族からキーパーソンとなる人物を探す
	☐	18. キーパーソンとなる家族・親族へ支援計画を説明し了解を得る
近隣・地域住民に向けた支援	☐	19. 近隣住民へ本人への対応を継続していることを示し理解を得る
	☐	20. 近隣へのゴミや堆積物の越境が変化していないかを確認する
	☐	21. 関わりのある近隣住民から、本人に関係する困り事を確認し住民のニーズを把握する
家屋および家屋周辺状況等の現地確認	☐	22. 敷地内の堆積物、悪臭の有無を確認する
	☐	23. 定期的に現地訪問し、敷地内の環境の変化を確認する
	☐	24. 室内から家屋の老朽状態を確認する
	☐	25. 室内の堆積物による転倒のリスクを確認する
関係機関との連携	☐	26. 市区町村のサービス利用に向けて、担当課への協力を依頼する
	☐	27. 本人が利用している施設や担当者から追加情報を得る
	☐	28. ケース会議で支援方針を協議し、今後の役割分担を明確にする
	☐	29. 関係機関と互いに顔が見える関係を重視し、逐次情報共有を図る
	☐	30. 本人が自立可能なことから支援する方法を検討していく
	☐	31. 本人の精神状況について、保健・医療・福祉職の意見を把握する